

「学校に求められるこれからの児童・生徒指導」

－発達課題の視点から見た児童・生徒指導の評価について－

栃木県教育委員会

はじめに

今般、小中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領が順次改訂され、各小中学校では、子どもたちの「生きる力」をはぐくむことを目指し、新学習指導要領の一部先行実施が始まりました。

一連の教育改革の背景には、今日の社会情勢の変化や多様性、また、子どもたちを取り巻く環境の変化等に、従来の教育システムや考え方では対応できなくなった実態があります。

このような情勢を踏まえ、本県では、「学力の向上」と「家庭の教育力の向上」に向け、様々な施策を展開しておりますが、その基盤としての児童・生徒指導の重要性は以前にも増して高まっているといえます。

平成14年度から、子どもたちの成長を、幼児期の段階からの計画的な指導・援助により促していくという考え方を基本に、それぞれの発達段階ごとの指導目標を明確に定めながら、その達成に向けた指導を継続的に行っていく児童・生徒指導の展開を推進してまいりました。これまでの本委員会の提言を受け、特に発達課題の達成に視点をおいた指導・援助の在り方を検討、実施してきたところです。

今回は、それらの取組をさらに進め、発達課題と指導要録における行動の記録との関連について検討いただき、各学校における児童・生徒指導の評価やその後の指導の手だて等について御協議いただきました。各学級、学年において使用しやすい発達課題の評価表、指導の参考となる手だてや系統シート等、各学校が児童・生徒指導を展開する上で、実際に活用できる資料がまとまったものと考えております。

最後になりましたが、本委員会に御尽力いただきました、小林委員長はじめ委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

平成22年3月

栃木県教育委員会教育長
須藤 稔

目 次

はじめに

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. 協議のねらい | 1 |
| 2. 基本的な考え方 | 2 |
| (1) 児童・生徒指導における評価の必要性 | 2 |
| (2) 本資料の活用について | 3 |
| (3) 資料活用によって見込まれる効果について | 5 |
| 3. 児童・生徒指導の評価について | 6 |
| (1) 行動の記録に係る発達課題の評価表 | 6 |
| (2) 発達の各段階における指導の手だて | 10 |
| (3) 行動の記録に係る系統シート | 14 |
| 4. 平成20・21年度児童・生徒指導推進委員会委員 | 17 |
| 5. これまでの主な指導資料等 | 18 |

1. 協議のねらい

協議題

「学校に求められるこれからの児童・生徒指導」

－発達課題の視点からみた児童・生徒指導の評価について－

趣 旨

栃木県教育委員会では、これまで全ての児童生徒の社会的な自立に向けて、自己指導能力の育成を図る児童・生徒指導を推進してきた。本委員会としても、その目的達成のため、児童生徒の発達の段階ごとに身に付けさせるべき具体項目に着目した指導の在り方について協議し、資料をまとめるなど普及啓発に努めてきたところである。その結果、各学校では発達課題の重要性に対する理解は進みつつあるが、実際の活用に関しては十分とは言えない状況にある。

そこで、平成18・19年度においては、各学校が、児童生徒の実態把握のよりどころとなる評価規準として、発達課題を活用しながら、マネジメントサイクルの機能を生かして学校の指導の改善を図るための方策について検討を行った。

さらに、平成20・21年度は、その取組を一步進め、発達課題と指導要録における行動の記録との関連について検討した。各学校で行動の記録を記入する際に活用しやすい発達課題の表や見取りの視点を示すことにより、児童生徒の実態把握や課題把握に基づいて行われる効果的な児童・生徒指導の推進を図るものとする。

2. 基本的な考え方

(1) 児童・生徒指導における評価の必要性

〔児童・生徒指導の目標〕

児童・生徒指導の目標は、言うまでもなく「自己指導能力の育成」である。この自己指導能力には、「自己をありのままに認め（自己受容）、自己に対する洞察を深めること（自己理解）、これらを基盤に自らの追求しつつある目標を確立し、また明確化していくこと、そしてこの目標の達成のため、自発的、自律的に自らの行動を決断し、実行することなどが含まれる（旧文部省生徒指導資料第20集より）」ことから、学校の教育活動全体を通して育成することが重要である。そして、教師は子どもたちの将来を見据え、一人一人が社会的に自立できるような資質・能力や態度を形成していくための指導・援助に取り組む必要がある。

しかし、日々様々な教育活動が展開される学校現場において、「自己指導能力の育成」という言葉だけではあまりに抽象的であり、児童生徒にどのような力をどのように身に付けさせればよいかは明確ではない。

そこで、栃木県教育委員会では、子どもたちが健全な発達を遂げる上で、それぞれの発達の段階において身に付けておくべきもの、いわゆる「発達課題」に焦点を当て、学校等がどう取り組めばよいのかをまとめた資料を作成してきた。

なお、学校を、すべての子どもたちが失敗や間違いを恐れることなく心地よく過ごせる真の居場所にしていくことの大切さも、ここで確認しておきたい。

〔発達課題〕

子どもの発達は、乳幼児期から青年期まで連続的なものであるため、個々の児童生徒が調和のとれた発達を遂げるためには、発達の各時期に達成することが期待される「発達課題」を十分に身に付けさせる必要がある。

また、発達課題を活用し、「何を、いつ、どのような活動を通して身に付けさせるか」を明らかにすることにより、目標に準拠した指導・援助が可能になるとともに、「～が身に付いたか、～ができるようになったか」という視点から児童・生徒指導の評価が容易になると考えられる。

ただし、発達には個人差があるため、子どもの発達段階と発達課題の関係を固定的にとらえすぎることのないよう留意しなければならない。

〔児童・生徒指導の評価〕

児童・生徒指導の評価については、これまでも様々な理論や方法が提示されてきたが、本来評価とは、指導に生かすために行うものであり、評価のための評価ではない。児童生徒の行動を評価することが、児童生徒のよりよい成長の助けとなるよう心がけなければならない。

そのためには、一人一人の児童生徒をより多くの目で多角的に評価することが重要である。授業中のみならず、休み時間や給食の時間、登下校時など様々な活動場面において、担任教師だけでなくかかわる多くの教師による評価を積み重ねることで、評価の客観性を高めることができる。

その際、児童生徒の行動の背景や、その基となる考え方、内面まで考慮しながら、最終的には具体的な行動に現れた部分の評価しなければならない。

(2) 本資料の活用について

〔行動の記録との整合性〕

小・中学校の児童・生徒指導要録の行動の記録は、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、その他学校生活全体にわたって認められる児童生徒の行動について、項目に照らしながら評価することになっている。

しかし、評価の基となる資料が統一されていなかったり、一面的な見方に偏ってしまったりと、何をどのように評価するのかを一教師の判断に任されている現状も見られる。

さらに、評価の観点が児童生徒や保護者に示されないままに評価が行われていることがあるため、児童生徒が具体的に何を努力すべきかがわからなかったり、保護者との連携が十分に図れなかったりして指導の効果が上がらない状況も見受けられる。

そこで、今回、指導要録の行動の記録の10項目について、それぞれの項目ごとに系統性を考え、これまで作成してきた「発達課題」の内容との関連から、児童生徒に身に付けてほしい内容を絞って、「行動の記録に係る発達課題の評価表」、各発達の段階における「指導の手だて」及び「行動の記録に係る系統シート」を作成した。

〔行動の記録に係る発達課題の評価表〕

この評価表は、教師が活用しやすいように作成した。文末表現を変えるなどの工夫により、児童生徒や保護者に対して目標として示したり、児童生徒の自己評価や保護者からの評価を加味しながら事後の指導に活用できるようにした。

(例) 小学校低学年 評価:A=よくできる B=だいたいできる C=あまりできない D=できない

| 評価項目 ※ア | 発 達 課 題 ※イ | | 評価 ※ウ | 記録 ※エ |
|------------|-------------------|----|-------|-------|
| 〔基本的な生活習慣〕 | ①自分から進んであいさつができる。 | 表現 | | |
| | ②教師の指示に従うことができる。 | 耐性 | | |
| 〔 ※オ 〕 | ① | | | |
| | | | | |

※ア 評価項目について

指導要録で示されている10の評価項目を設定し、発達課題と関連づけた。

※イ 発達課題について

それぞれの評価項目について、子どもたちの生活全般の中で、特に身に付けてほしい課題を示した。右欄には、発達課題のキーワードを表示し、身に付いていない課題については、「指導の手だて」等を参考に事後の指導に生かせるよう工夫した。

各キーワードは、以下の資料に詳しく示してある。

○H14「不登校の解消に向けた方策について」

キーワード：自立、耐性、適応

○H15「暴力行為を予防するための方策について」

キーワード：耐性、表現、共感

○H16「場に応じた適切な判断力を育てるための指導・援助の在り方」

キーワード：表現、共感、想像、適応、耐性、規範

※ウ 評価について

子どもたちの具体的な行動について、A～Dの4段階で評価する。その際、まずは担任が記入し、その後学年単位で共通理解を図り、学年で統一した評価を心がけるなど、できる限り客観的に評価する必要がある。

※エ 記録について


それぞれの項目ごとに、特徴的な傾向、指導の手だて、配慮事項等、簡単な指導の記録として利用する。

※オ 空欄について

各評価項目の下段の空欄は、各学級や学年の実態に合わせて評価項目を独自に設定するなどして活用できる。その際、発達課題に入れるべき内容は、これまでに作成してきた「児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ(H14～H17)」を参考にしてほしい（ダウンロードし、各校の実態に応じた加工が可能）。

[行動の記録に係る発達課題の評価表の活用例]

評価表の活用時期等について、下表に参考として示した。児童生徒及び保護者と、努力項目や指導・評価項目等の共通理解を図るなどしながら活用してほしい。

| | 児童生徒 | 教師 | 保護者に対して |
|----------|---|---|---|
| 4月 |  <p>「評価表」は実態に応じてアレンジする。 ・全シートを使う。 ・いくつかの項目に絞って使う。 ・全項目、1～2の発達課題に絞って使うなど。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○学校、学年で指導方針を確認 ○経営方針等作成 | <ul style="list-style-type: none"> ○学級経営方針の説明努力項目を明示・説明(評価表と関連させて) |
| 5月末～6月初め | <ul style="list-style-type: none"> ○「評価表」で自己評価 | <ul style="list-style-type: none"> ○教育相談で個別に確認 <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の妥当性 ・努力項目の確認と具体的な方法のアドバイス | |
| 7月初め | <ul style="list-style-type: none"> ○努力項目の達成度合いを自己評価 | <ul style="list-style-type: none"> ○「指導の手だて」等を活用して指導 ○学年で共通理解を図る <ul style="list-style-type: none"> ・「評価表」に教師の視点で全児童生徒分記入 | <ul style="list-style-type: none"> ○個人懇談で活用 |
| 7月中旬 | | <ul style="list-style-type: none"> ○1学期の通知票の行動の記録に活用 | |

2学期以降も同様に実施



○指導要録への記入に活用

〔指導の手だて〕

前記の評価表においてC：あまりできない、及びD：できない等の評価がなされた児童生徒に対して、発達課題を身に付けさせるための指導の手だてを各発達段階でキーワード別に例示した。

指導に生かせる評価をするため、評価を記入したら終わりではなく、指導の手だての例を参考に、どのような活動を通して、どのような力を身に付けさせるのかなど、評価後の具体的な指導場面における発達課題の達成に向けた指導に生かしてほしい。

〔行動の記録に係る系統シート〕

子どもの成長は連続的であり、ある段階で完結するものではない。この系統シートを活用することで、担当している学年だけでなく、その前後の発達課題を知ることができる。

現段階において、項目の内容が身に付いていない場合、発達段階を下げて指導したり、さらに伸ばしたい内容については、先の段階を見通して指導したりするなど、系統的、発展的な取組が可能となる。

(3) 資料活用によって見込まれる効果について

〔見込まれる効果〕

学校の教育活動は意図的なものである。児童・生徒指導においても、学校全体を見通した大きなマネジメントサイクル（P D C A）と各担当や係などのセクションによる小さなマネジメントサイクル（p d c a）を上手に活用しながら、児童・生徒指導が機能する学校体制づくりを推進する必要がある。（H18・19児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ参照）

P=計画の立案(プラン) D=計画の実行(ドゥー) C=状況把握(チェック) A=見直し・改善(アクション)

その大本となる児童生徒の実態を、発達課題の評価表等を活用しながら把握することは、学校が進める児童・生徒指導の基本と考えられる。

児童生徒一人一人の発達課題の達成状況を把握し評価することが、学級や学年の傾向、さらに学校全体の取組状況を把握することにつながり、大きなマネジメントサイクルのCが成り立つ。それにより、これまでの取組の検証、児童生徒の目標の設定等が容易になると考える。

また、指導基準が明確になることにより、教職員が共通理解のもと指導に当たることができ、複数の目による多角的な評価が可能となり、結果として年度末に指導要録の行動の記録への記入にも役立つ。

さらに、年度当初に児童生徒や保護者に対してこの評価表を示すことにより、自己評価をもとに、児童生徒の意識や行動について話し合うことができ、保護者との連携の視点からも指導の効果が上がると考えられる。

3. 児童・生徒指導の評価について

(1) 行動の記録に係る発達課題の評価表

小学校低学年

評価:A=よくできる B=だいたいできる C=あまりできない D=できない

| 評価項目 | 発達課題 | 評価 | 記録 |
|----------------|-----------------------------------|----|----|
| 〔基本的な生活習慣〕 | ①自分から進んであいさつができる。 | 表現 | |
| | ②教師の話をよく聞き、約束を守ることができる。 | 耐性 | |
| | ③正しい姿勢で人の話を聞くことができる。 | 耐性 | |
| | ④時間を守って行動できる。 | 適応 | |
| | ⑤歩行、自転車に関する交通ルールを守ることができる。 | 規範 | |
| | ⑥「ありがとう」、「ごめんなさい」などを素直に言うことができる。 | 表現 | |
| 〔健康・体力の向上〕 | ①学校に通うことができる。 | 適応 | |
| | ②楽しく運動できる。 | 自立 | |
| | ③うがい手洗いができる。 | 自立 | |
| 〔自主・自律〕 | ①自分の考えを持って言葉で伝えることができる。 | 表現 | |
| | ②興味を持ったことに対してねばり強く最後までやり通すことができる。 | 自立 | |
| | ③してはいけないことを我慢できる。 | 耐性 | |
| 〔責任感〕 | ①課題や係活動にまじめに取り組むことができる。 | 耐性 | |
| | ②自分でやらなければならないことは、しっかりと行うことができる。 | 適応 | |
| 〔創意工夫〕 | ①進んで話ができる。 | 表現 | |
| | ②工夫して遊ぶことができる。 | 想像 | |
| 〔思いやり・協力〕 | ①友人と仲良く遊ぶことができる。 | 適応 | |
| | ②友人に対して優しい心で接することができる。 | 共感 | |
| | ③友人とともに喜んだり悲しんだりすることができる。 | 共感 | |
| 〔生命尊重・自然愛護〕 | ①動植物に優しい心で接することができる。 | 共感 | |
| | ②命はかけがえのないものであることが体験を通じて理解できる。 | 想像 | |
| 〔勤労・奉仕〕 | ①清掃活動をきちんとすることができる。 | 耐性 | |
| | ②先生の手伝いができる。 | 自立 | |
| 〔公正・公平〕 | ①よいと思うことを進んで行うことができる。 | 規範 | |
| | ②友だちの長所に気付くことができる。 | 共感 | |
| | ③仲間はずしをしないで、誰とでも仲良く遊ぶことができる | 自立 | |
| 〔公共心・公德心〕 | ①集団遊びの中でルールを守ることができる。 | 規範 | |
| | ②みんなが使うものを大切にすることができる。 | 自立 | |
| 〔 〕 | ① | | |
| | ② | | |
| | ③ | | |

| 評価項目 | 発達課題 | 評価 | 記録 |
|-------------|--|----|----|
| 〔基本的な生活習慣〕 | ①場に応じたあいさつができる。 | 表現 | |
| | ②教師の話をよく聞き、約束を守ることができる。 | 耐性 | |
| | ③人の話を最後まで聞くことができる。 | 耐性 | |
| | ④時間を守って行動できる。 | 適応 | |
| | ⑤歩行、自転車に関する交通ルールを守ることができる。 | 規範 | |
| 〔健康・体力の向上〕 | ①学校に楽しく通うことができる。 | 適応 | |
| | ②進んで運動できる。 | 自立 | |
| | ③服装や身なりに気をつけて生活できる。 | 自立 | |
| 〔自主・自律〕 | ①自分の考えを言葉や行動で表現できる。 | 表現 | |
| | ②目標を立て意欲的に行動できる。 | 自立 | |
| | ③集団の目的のために、自己の欲求を抑えることができる。 | 耐性 | |
| | ④親や家庭から離れて、友人集団で遊ぶことができる。 | 適応 | |
| 〔責任感〕 | ①課題や役割などにねばり強く取り組むことができる。 | 耐性 | |
| | ②やらなければならないことに対して、誠実な態度で取り組むことができる。 | 適応 | |
| 〔創意工夫〕 | ①よく考えて話ができる。 | 表現 | |
| | ②工夫して遊ぶことができる。 | 想像 | |
| 〔思いやり・協力〕 | ①意見を取り入れながら友人と仲良く遊ぶことができる。 | 適応 | |
| | ②友人に対して優しい心で接することができる。 | 共感 | |
| | ③相手の立場に立ってものごとを考えることができる。 | 共感 | |
| 〔生命尊重・自然愛護〕 | ①自然のすばらしさや不思議さに感動できる。 | 共感 | |
| | ②動植物などの生命の尊さを意識した行動ができる。 | 想像 | |
| 〔勤労・奉仕〕 | ①働くことの大切さを知り、進んで清掃活動に取り組むことができる。 | 耐性 | |
| | ②クラスのためになる仕事ができる。 | 自立 | |
| 〔公正・公平〕 | ①正しいと判断したことは行い、正しくないと判断したことはやめることができる。 | 規範 | |
| | ②相手の気持ちを考えて行動できる。 | 共感 | |
| | ③活動するとき、役割や順番を公平に決めることができる。 | 自立 | |
| 〔公共心・公德心〕 | ①集団や社会のルールを守ることができる。 | 規範 | |
| | ②周りの人のことを考えながら行動できる。 | 自立 | |
| 〔 〕 | ① | | |
| | ② | | |
| | ③ | | |

| 評価項目 | 発 達 課 題 | 評価 | 記 録 |
|-------------|------------------------------------|----|-----|
| 〔基本的な生活習慣〕 | ①相手に合わせた気持ちの良いあいさつができる。 | 表現 | |
| | ②学校生活のルールを理解し、それを守ることができる。 | 耐性 | |
| | ③誠実な態度で人の話を聞くことができる。 | 耐性 | |
| | ④見通しを立てて計画的に行動できる。 | 適応 | |
| | ⑤危険な状況を把握し、適切な行動ができる。 | 規範 | |
| 〔健康・体力の向上〕 | ①学校に楽しく通うことができる。 | 適応 | |
| | ②進んで運動できる。 | 自立 | |
| | ③健康に気をつけて生活できる。 | 自立 | |
| 〔自主・自律〕 | ①他者の意見に対する自分の考えを言葉で表現できる。 | 表現 | |
| | ②場に応じて判断し、主体的・積極的に行動できる。 | 自立 | |
| | ③辛いことや苦しいことにも取り組むことができる。 | 耐性 | |
| | ④親しい友人と良好な関係をつくることができる。 | 適応 | |
| 〔責任感〕 | ①課題や役割などを確実にやり通すことができる。 | 耐性 | |
| | ②高学年としての立場や責任を踏まえ、模範的な行動ができる。 | 適応 | |
| 〔創意工夫〕 | ①新しい考えを持ち、生活に生かすことができる。 | 表現 | |
| | ②遊びや生活のルールを自分たちで作ることができる。 | 想像 | |
| 〔思いやり・協力〕 | ①周りの人のことを考えながら、協力して生活できる。 | 適応 | |
| | ②友人や年少者に対して、思いやりを持って接することができる。 | 共感 | |
| | ③異なる意見や立場を尊重し、相手の良さを認めることができる。 | 共感 | |
| 〔生命尊重・自然愛護〕 | ①自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすることができる。 | 共感 | |
| | ②生命の大切さ、尊さを自分のこととして理解できる。 | 想像 | |
| 〔勤労・奉仕〕 | ①働くことの意義を理解し、進んで清掃活動に取り組むことができる。 | 耐性 | |
| | ②自分から人の役に立つことを考え、学校のためになる仕事ができる。 | 自立 | |
| 〔公正・公平〕 | ①いじめなど身近な差別や偏見に気付き、それらをなくそうと努力できる。 | 規範 | |
| | ②自己主張だけでなく、相手の気持ちを考えて行動できる。 | 共感 | |
| | ③だれに対しても分け隔てなく接することができる。 | 自立 | |
| 〔公共心・公德心〕 | ①自己の欲求よりルールを尊重できる。 | 規範 | |
| | ②学校や人々の役に立つことを進んで行うことができる。 | 自立 | |
| 〔 〕 | ① | | |
| | ② | | |
| | ③ | | |

| 評価項目 | 発 達 課 題 | 評価 | 記 録 |
|-------------|---|----|-----|
| 〔基本的な生活習慣〕 | ①あいさつの意味や価値を理解し行動できる。 | 表現 | |
| | ②学校のルールを理解し、それを守ることができる。 | 耐性 | |
| | ③誠実な態度で人の話を聞くことができる。 | 耐性 | |
| | ④見通しを立てて計画的に行動できる。 | 適応 | |
| | ⑤危険な状況を把握し、事態の展開を予想した行動ができる。 | 規範 | |
| 〔健康・体力の向上〕 | ①目的を持って学校に通うことができる。 | 適応 | |
| | ②体力の向上を意識し運動できる。 | 自立 | |
| | ③健康に気をつけて生活できる。 | 自立 | |
| 〔自主・自律〕 | ①相手の立場を考慮しながら、自分の考えを言葉で表すことができる。 | 表現 | |
| | ②現実的な目標を持ち、計画的に実行できる。 | 自立 | |
| | ③場面や状況に応じて自分の気持ちや欲求をコントロールできる。 | 耐性 | |
| 〔責任感〕 | ①集団の目的に沿って自己の課題や役割を果たすことができる。 | 耐性 | |
| | ②中学生としての立場や責任を踏まえ、信頼される行動ができる。 | 適応 | |
| 〔創意工夫〕 | ①新しい考えや方法を進んで生活に生かすことができる。 | 表現 | |
| | ②将来の自己像について考え、個性を生かした生活を工夫できる。 | 想像 | |
| 〔思いやり・協力〕 | ①他の人の考えや行為を尊重しながら、協力して生活できる。 | 適応 | |
| | ②他者への優しさや思いやりの気持ちを持ち、行動できる。 | 共感 | |
| | ③自他を尊重し、だれに対しても広い心で接することができる。 | 共感 | |
| 〔生命尊重・自然愛護〕 | ①自然の摂理に畏敬の念を持ち、自然環境の保全を意識して行動することができる。 | 共感 | |
| | ②生命の連続性を理解し、自他の生命を尊重できる。 | 想像 | |
| 〔勤労・奉仕〕 | ①勤労の尊さや意義を理解し、進んで清掃活動に取り組むことができる。 | 耐性 | |
| | ②自分から人や社会の役に立つことを考え、進んで奉仕活動をすることができる。 | 自立 | |
| 〔公正・公平〕 | ①不正な行動やいじめなど差別や偏見を許さず、それらをなくそうと努力できる。 | 規範 | |
| | ②他人の意見を尊重し、客観的な立場から意見を述べることができる。 | 共感 | |
| | ③善悪について自分なりの判断ができる。 | 自立 | |
| 〔公共心・公德心〕 | ①法やきまりの意義を理解し、それらを守ることができる。 | 規範 | |
| | ②日本の文化や伝統を大切にするとともに、国際的視野に立って公共のために役立つことを進んで行うことができる。 | 自立 | |
| [] | ① | | |
| | ② | | |
| | ③ | | |

(2) 発達の各段階における指導の手だて

小学校低学年における指導の手だての例

〔表現〕

- ・縦割り班によるあいさつ運動を継続的に実施する。
- ・小集団活動などにより、考えを発言させる機会、発言を聴く機会を作る。
- ・自分の気持ちを短文に書き表す指導を行う。
- ・家庭学習において、音読カードを使った音読練習を行う。

〔耐性〕

- ・嫌なことでも、最後までやり通す経験をさせる。
- ・花壇の水やりなど自分の役割を決め、継続して実行させる。
- ・連絡帳をきちんと書かせる。
- ・教師の説明などをきちんと聴く態度を身につけさせる。
- ・毎日決まって行う家庭内の役割を与え、実行するよう促す。
- ・机やロッカーの整理をさせる。

〔適応〕

- ・時刻を守って生活するための約束づくりをする。
- ・グループ活動を多く取り入れ、協働による創作活動などを実施する。
- ・居がいのある学級にするために一人一役を与え、仕事をさせる。
- ・仕事のチェック表を作成し、任された仕事を確実に行った実感を持たせる。
- ・地域、育成会等の行事に参加させ、大人や年長者と交流する機会をつくる。

〔自立〕

- ・うがい手洗いなど健康安全に関する基本的な生活習慣を定着させる。
- ・子どもが話そうとするときに、評価を挟まず、あいづちをうちながらたっぷり聞く。
- ・子どもが手伝ってくれたことに対して、感謝の気持ちを言葉にして伝える。
- ・自分から遊びに入ったり、友だちを遊びに誘ったりする体験を積ませる。
- ・自分の物、他人の物、みんなの物を意識させる。

〔共感〕

- ・他者紹介などにより級友への関心を高めさせる。
- ・清掃や給食準備など協同作業を意図的に計画する。
- ・困っている友達の手助けをさせる。
- ・いろいろな友達と遊ぶように促す。
- ・物語を読ませ、主人公の気持ちを読み取らせる。
- ・生活科における動植物の飼育、栽培を通して生き物に対する優しい心を育てる。

〔規範〕

- ・交通ルールを知識として計画的に教え、ロールプレイや視聴覚教材などにより安全と危険について理解させる。
- ・よい行いを賞賛したり例示したりして、よい行いを実行しようとする意欲付けをする。
- ・話合いにより自分たちのルールを作らせる。
- ・ルールのある集団遊びをさせ、いけないことや守らなければならないことを体験させる。

〔想像〕

- ・よい行いを賞賛したり例示したりして、気づきを促し意欲付けをする機会を作る。
- ・グループ遊びの中で誰もが楽しめるようなやり方を考えさせ、発表させる。
- ・自分の将来の夢を自由に考えさせる機会を作る。
- ・学校と家庭をつないだ学習を通して働く喜びを実感し、役割の必要性などに気づかせる。
- ・生活科の観察実験で昆虫や小動物を扱い、命とのかかわりについて実感させる。

小学校中学年における指導の手だての例

〔表現〕

- ・縦割り班活動を実施し、下級生や上級生とかかわる機会を意図的に設ける。
- ・構成的グループエンカウンターを行い、友達の意見をしっかり聞いたり、自分の意見や気持ちをみんなの前で発表したりする体験をさせる。
- ・「楽しかったこと」「うれしかったこと」などを日記にまとめさせるなど、自分の気持ちを自己表現させる。
- ・グループ学習の授業形態を増やし、子ども同士が学び合う場を多く設定する。
- ・ソーシャルスキルやロールプレイ等を取り入れた具体的な行動の仕方を学習させる。
- ・朝の会や帰りの会、学級会の司会や運営方法を子どもに任せるなど、主体的な活動場面を増やす。

〔耐性〕

- ・我慢を要する課題を与え、達成できたときには適切に評価、賞賛する。
- ・係活動の内容を明確化し、工夫しながら楽しく活動できるよう援助する。
- ・日直や給食当番等で一人一役を与え、毎日実行させる。
- ・教師や友達の話をきちんと聴く態度を身に付けさせるとともに、人に伝える経験をさせる。
- ・風呂掃除や花壇の水やりなどの家庭内の仕事をするよう促す。
- ・身の回りの整理をさせる。

〔適応〕

- ・日記をつけたり、帰りの会で一日をふりかえるなど、学校生活を見つめさせる。
- ・席替えやグループ編成の工夫などにより、多くの友人と接する機会を増やす。
- ・学級の中での仕事を見直したり、新設したりさせる。
- ・学級の中でのお互いの仕事を評価し合う場を設け、賞賛したりや改善案を話し合ったりさせる。
- ・野外活動など自然の中での営みや人と人との協力の在り方を学ぶ活動を体験させる。

〔自立〕

- ・バランスよい食事、清潔な身なり、休み時間の過ごし方など健康安全に関する望ましい生活習慣を定着させる。
- ・「こんな自分になりたい」「こんな自分を変えたい」など自己理解を踏まえた目標をつくらせ、定期的に自己評価させる。
- ・係や当番、行事の役割等での互いの活躍を賞賛し合い、仕事をすることの喜びを感じさせる。
- ・メンバーが知り合いや仲良しでなくても気持ちよく協力して活動するためのマナーを教える。
- ・自分のことよりも全体のことを優先させる。

〔共感〕

- ・帰りの会でうれしかったこと、悲しかったことを発表させる。
- ・集団での遊びなどを通して、様々な決まりや約束事を作らせる。
- ・いじめについて話し合うなど、他人の気持ちについて話し合う機会を設ける。
- ・学級活動等でのいじめや悪口について話し合い、他人の気持ちについて考えさせる。
- ・ボランティア活動を体験させる。
- ・自然や芸術などに接する機会を設け、美しいものに感動する経験をさせる。

〔規範〕

- ・交通安全教室などを通じて、体験的に歩行、自転車に関するルールの理解を深める。
- ・事例やロールプレイを用いて様々な状況の中でのあるべき行動の優先順位について考えさせる。
- ・話し合いにより学級のルールを作らせる。
- ・ルールのあるゲームなどを通して、いけないことや守らなければならないことを体験させる。

〔想像〕

- ・「自分は～ができた」「こんなこともできそうだ」と自分のよさや可能性への気づきを促す機会を作る。
- ・集団活動の時間に、活動のルールや方法を自分たちで主体的に工夫させる。
- ・自分の将来の夢を自由に考えさせる機会を作る。
- ・社会科や総合的な学習の時間などを通して、働く人へのインタビューや見学の機会を生かし、社会への関心を促す。
- ・理科等、観察実験で昆虫や小動物を扱い、命とのかかわりについて実感させる。

小学校高学年における指導の手だての例

〔表現〕

- ・場面や相手の違いにより、あいさつの仕方や言葉遣いの変化することを指導し理解させる。
- ・人前で自分の意見を適切な言葉で発表させる。
- ・1分間スピーチなどを利用し、与えられたテーマに対し自分の考えを述べさせる体験をさせる。
- ・相手の考えを聞きながら自分の考えと折り合いを付けることを学ばせる。
- ・児童が「あいさつ」や「言葉づかい」について目標をもって取り組める自己評価カードを作成する。

〔耐性〕

- ・到達目標を細分化し、努力と達成感を数多く経験させる。
- ・学校行事で個の力に応じた責任のある役割を与える。
- ・係活動や委員会活動に主体的にかかわらせることにより、すべての児童に役割意識と責任感を持たせる。
- ・登校班や縦割り班などの責任者として下学年の面倒を見ながら活動させる。
- ・家族で仕事の分担を話し合い、家庭内の仕事をするよう促す。
- ・身の回りの整理整頓をさせ、過ごしやすい教室環境を作らせる。

〔適応〕

- ・短期、中長期の目標を設定し、毎日の生活を見通しを持って生活させる。
- ・相手の考えを聴きながら自分の考えと折り合いをつけることを学ばせるように話し合い活動を工夫する。
- ・学校行事等において計画の段階から参加させる。
- ・縦割り班の活動の中でリーダーとしての役割を持たせ、活動を記録表にまとめることで高学年としての自覚を促す。
- ・子どもたちの学校外での様子を把握することや地域子ども会活動を重視することを通して、地域における集団活動を活性化させる。

〔自立〕

- ・気候や天候、体調に合わせて服装や持ち物、活動を自分で調整させる。
- ・日常生活の様々な場面で自己決定させる機会を増やし、任せて見守る。
- ・「一日一善」などの取組を通して、みんなのためになることは自分で見つけて実行する習慣を定着させる。
- ・リーダーとしてメンバーに分け隔てなく接する体験をさせる。

〔共感〕

- ・ロールプレイにより相手の気持ちを考えさせる訓練をする。
- ・グループ活動を通して他者への関わり方を身につけさせる。
- ・自分と違う意見についても一緒になって考える機会を作る。
- ・縦割り班などの責任者として下学年の面倒を見させる。
- ・歴史上の人物などの生き方や業績などを学ばせる。
- ・自然や芸術などを通して美しいものに接する機会を設ける。

〔規範〕

- ・事例やロールプレイを用いて、様々な場面で発生する危険を予測し、進んで安全な行動ができるようにさせる。
- ・いじめの構造、いじめに対する基本的な考え方を理解させ、いじめが起こった場合どうしたらよいか考えさせる。
- ・相手の考えを聴きながら自分の考えと折り合いをつけることを学ばせる。
- ・公私の区別をわきまえた言動を身に付けさせる。

〔想像〕

- ・「どのような能力が身についたか、あるいは高まったか」「現時点でどれだけ力を発揮できたか」などについて、振り返る機会を定期的に作る。
- ・異学年交流活動、保護者や地域の人と関わりながら学ぶ機会を作る。
- ・自分の将来の夢を自由に考えさせる機会を作る。
- ・新聞や雑誌などから活躍している大人の情報を提供するようにする。
- ・自分までつながってきた命の連続性を考えさせ、家族との関わりを意識させながら小学校入学から現在までの自分史を作成させる。

中学校における指導の手だての例

〔表現〕

- ・生徒会など生徒が主体となったあいさつ運動の推進を促す。
- ・場に応じたあいさつによって、人間関係にもたらされるメリットについて学級活動等で話し合いを行う。
- ・ロールプレイを通し、意図が伝わりやすい話し方、自分と相手の立場を意識した断り方などの活動をさせる。
- ・新聞やテレビ等で話題になっていることを話し合い、自分の考えを述べさせる活動をさせる。
- ・職場体験学習や老人・福祉施設への訪問、ボランティア活動などを通して、社会の人と会話する体験をさせる。

〔耐性〕

- ・学習活動や係活動、部活動や奉仕活動などにより小さなストレスを乗り越える経験をさせ、自信や自己肯定感を高めさせる。
- ・地域の事業所等で勤労体験、職場体験をさせるとともに、社会福祉施設等での福祉体験をさせる。
- ・地域の清掃等ボランティア活動に参加させる。
- ・家庭の事情に応じて家事を分担するよう促す。
- ・教室環境を整えさせるとともに、学校や地域の環境について考えさせる。

〔適応〕

- ・短期、中長期の目標を設定し、毎日の生活を見通しを持って生活させる。
- ・ストレスマネジメントや対人スキルを学習させたり、構成的グループエンカウンターを定期的に実施したりする。
- ・学級活動、学年・学校行事を生徒主体で進めることにより、帰属意識を持たせていく。
- ・学校行事などでの役割を明確にするとともに、個人、集団としての目標設定と評価を十分に行わせる。
- ・施設における体験的活動やボランティア活動をさせる。

〔自立〕

- ・心の健康に関する知識やストレス発散法を教え、ストレス・マネジメントを身に付けさせる。
- ・職場体験や高校の体験入学などと関連させながら進路に関する学習を行う。
- ・地域の行事やボランティア活動への参加を促し、地域の人々の声を伝え、感謝される喜びを味わわせる。
- ・身近な出来事を取り上げ善悪の判断を求めたり、感じたことを日記に書かせたりする。
- ・「最近のニュースで気になったこと」などのテーマで日記を書かせる。

〔共感〕

- ・同じテーマによる意見発表、ディベートなどを実施し、自己と他者の考え方や感じ方の違い、様々な悩みがあることに気づかせる。
- ・学級活動や部活動等を通して集団への帰属意識を持たせる。
- ・道徳資料やビデオ、文学作品等によって様々な心情や精一杯生きることのすばらしさにふれさせる。
- ・幼稚園や保育所、高齢者との交流活動を実施する。
- ・価値観の違いに気付く場面を設定したり、異世代間の交流の体験をさせたりする。
- ・小集団活動を多く取り入れリーダーとメンバーの実体験をさせる。

〔規範〕

- ・事例やロールプレイを用いて、日常生活に関して安全な行動をとるとともに、日常の備えや的確な避難行動ができるようにする。
- ・事例やロールプレイを用いて、不正な言動や差別的言動が起こった場合どうしたらよいかを考えさせる。
- ・ディベートなどにより校則の意義を理解させる。
- ・外部講師による講話等により、法に触れる行為やその罰則、処遇等について理解させる。

〔想像〕

- ・「どのような能力が身についたか、あるいは高まったか」「現時点でどれだけ力を発揮できたか」についても含めた自己評価の機会を定期的に作る。
- ・小学校との連携や、地域の人との関わりを学ぶ機会を作る。
- ・将来の目標を明確化させるための情報提供や説明、相談活動を組織的、計画的に行う。
- ・職場体験プログラムを実施し、体験の中から自分の将来について考えさせる。
- ・保健体育や道徳、特別活動などを通して、「性」や「生命」に関する理解を深めさせ、自分の命、他者の命を大切にすることを育てる。

(3) 行動の記録に係る系統シート

〔基本的な生活習慣〕

| キーワード | 発 達 課 題 | | | |
|-------|----------------------------------|----------------------------|----------------------------|------------------------------|
| | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学校 |
| 表 現 | ①自分から進んであいさつができる。 | ①場に応じたあいさつができる。 | ①相手に合わせた気持ちの良いあいさつができる。 | ①あいさつの意味や価値を理解し行動できる。 |
| 耐 性 | ②教師の話をよく聞き、約束を守ることができる。 | ②教師の話をよく聞き、約束を守ることができる。 | ②学校生活のルールを理解し、それを守ることができる。 | ②学校のルールを理解し、それを守ることができる。 |
| 耐 性 | ③正しい姿勢で人の話を聞くことができる。 | ③人の話を最後まで聞くことができる。 | ③誠実な態度で人の話を聞くことができる。 | ③誠実な態度で人の話を聞くことができる。 |
| 適 応 | ④時間を守って行動できる。 | ④時間を守って行動できる。 | ④見通しを立てて計画的に行動できる。 | ④見通しを立てて計画的に行動できる。 |
| 規 範 | ⑤歩行、自転車に関する交通ルールを守ることができる。 | ⑤歩行、自転車に関する交通ルールを守ることができる。 | ⑤危険な状況を把握し、適切な行動ができる。 | ⑤危険な状況を把握し、事態の展開を予想した行動ができる。 |
| 表 現 | ⑥「ありがとう」、「ごめんなさい」などを素直に言うことができる。 | | | |

〔健康・体力の向上〕

| キーワード | 発 達 課 題 | | | |
|-------|---------------|---------------------|------------------|---------------------|
| | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学校 |
| 適 応 | ①学校に通うことができる。 | ①学校に楽しく通うことができる。 | ①学校に楽しく通うことができる。 | ①目的を持って学校に通うことができる。 |
| 自 立 | ②楽しく運動できる。 | ②進んで運動できる。 | ②進んで運動できる。 | ②体力の向上を意識し運動できる。 |
| 自 立 | ③うがい手洗いができる。 | ③服装や身なりに気をつけて生活できる。 | ③健康に気をつけて生活できる。 | ③健康に気をつけて生活できる。 |

〔自主・自律〕

| キーワード | 発 達 課 題 | | | |
|-------|-----------------------------------|-----------------------------|------------------------------|----------------------------------|
| | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学校 |
| 表 現 | ①自分の考えを持って言葉で伝えることができる。 | ①自分の考えを言葉や行動で表現できる。 | ①他者の意見に対する自分の考えを言葉で表すことができる。 | ①相手の立場を考慮しながら、自分の考えを言葉で表すことができる。 |
| 自 立 | ②興味を持ったことに対してねばり強く最後までやり通すことができる。 | ②目標を立て意欲的に行動できる。 | ②場に応じて判断し、主体的・積極的に行動できる。 | ②現実的な目標を持ち、計画的に実行できる。 |
| 耐 性 | ③してはいけないことを我慢できる。 | ③集団の目的のために、自己の欲求を抑えることができる。 | ③辛いことや苦しいことにも取り組むことができる。 | ③場面や状況に応じて自分の気持ちや欲求をコントロールできる。 |
| 適 応 | | ④親や家庭から離れて、友人集団で遊ぶことができる。 | ④親しい友人と良好な関係をつくることができる。 | |

〔責任感〕

| キーワード | 発 達 課 題 | | | |
|-------|----------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学校 |
| 耐 性 | ①課題や係活動にまじめに取り組むことができる。 | ①課題や役割などにねばり強く取り組むことができる。 | ①課題や役割などを確実にやり通すことができる。 | ①集団の目的に沿って自己の課題や役割を果たすことができる。 |
| 適 応 | ②自分でやらなければならないことは、しっかりと行うことができる。 | ②やらなければならないことに対して、誠実な態度で取り組むことができる。 | ②高学年としての立場や責任を踏まえ、模範的な行動ができる。 | ②中学生としての立場や責任を踏まえ、信頼される行動ができる。 |

〔創意工夫〕

| キーワード | 発 達 課 題 | | | |
|-------|----------------|----------------|---------------------------|--------------------------------|
| | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学校 |
| 表 現 | ①進んで話ができる。 | ①よく考えて話ができる。 | ①新しい考えを持ち、生活に生かすことができる。 | ①新しい考えや方法を進んで生活に生かすことができる。 |
| 想 像 | ②工夫して遊ぶことができる。 | ②工夫して遊ぶことができる。 | ②遊びや生活のルールを自分たちで作ることができる。 | ②将来の自己像について考え、個性を生かした生活を工夫できる。 |

〔思いやり・協力〕

| キーワード | 発 達 課 題 | | | |
|-------|---------------------------|----------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学校 |
| 適 応 | ①友人と仲良く遊ぶことができる。 | ①意見を取り入れながら友人と仲良く遊ぶことができる。 | ①周りの人のことを考えながら、協力して生活できる。 | ①他の人の考えや行為を尊重しながら、協力して生活できる。 |
| 共 感 | ②友人に対して優しい心で接することができる。 | ②友人に対して優しい心で接することができる。 | ②友人や年少者に対して、思いやりを持って接することができる。 | ②他者への優しさや思いやりの気持ちを持ち、行動できる。 |
| 共 感 | ③友人とともに喜んだり悲しんだりすることができる。 | ③相手の立場に立ってものごとを考えることができる。 | ③異なる意見や立場を尊重し、相手の良さを認めることができる。 | ③自他を尊重し、だれに対しても広い心で接することができる。 |

〔生命尊重・自然愛護〕

| キーワード | 発 達 課 題 | | | |
|-------|--------------------------------|--------------------------|------------------------------|--|
| | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学校 |
| 共 感 | ①動植物に優しい心で接することができる。 | ①自然のすばらしさや不思議さに感動できる。 | ①自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすることができる。 | ①自然の摂理に畏敬の念を持ち、自然環境の保全を意識して行動することができる。 |
| 想 像 | ②命はかけがえのないものであることが体験を通じて理解できる。 | ②動植物などの生命の尊さを意識した行動ができる。 | ②命の大切さ、尊さを自分のこととして理解できる。 | ②生命の連続性を理解し、自他の生命を尊重できる。 |

〔勤労・奉仕〕

| キーワード | 発 達 課 題 | | | |
|-------|---------------------|----------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|
| | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学校 |
| 耐 性 | ①清掃活動をきちんとすることができる。 | ①働くことの大切さを知り、進んで清掃活動に取り組むことができる。 | ①働くことの意義を理解し、進んで清掃活動に取り組むことができる。 | ①勤労の尊さや意義を理解し、進んで清掃活動に取り組むことができる。 |
| 自 立 | ②先生の手伝いができる。 | ②クラスのためになる仕事ができる。 | ②自分から人の役に立つことを考え、学校のためになる仕事ができる。 | ②自分から人や社会の役に立つことを考え、進んで奉仕活動を行うことができる。 |

〔公正・公平〕

| キーワード | 発 達 課 題 | | | |
|-------|------------------------------|---|-------------------------------------|--|
| | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学校 |
| 規 範 | ①よいと思うことを進んで行うことができる。 | ①正しいと判断したことは行い、正しくないとは判断したことはやめることができる。 | ①いじめなど身近な差別や偏見に気付き、それらをなくしようと努力できる。 | ①不正な行動やいじめなど差別や偏見を許さず、それらをなくしようと努力できる。 |
| 共 感 | ②友だちの長所に気付くことができる。 | ②相手の気持ちを考えて行動できる。 | ②自己主張だけでなく、相手の気持ちを考えて行動できる。 | ②他人の意見を尊重し、客観的な立場から意見を述べることができる。 |
| 自 立 | ③仲間はずしをしないで、誰とでも仲良く遊ぶことができる。 | ③活動するとき、役割や順番を公平に決められる。 | ③だれに対しても分け隔てなく接することができる。 | ③善悪について自分なりの判断ができる。 |

〔公共心・公德心〕

| キーワード | 発 達 課 題 | | | |
|-------|------------------------|----------------------|----------------------------|---|
| | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学校 |
| 規 範 | ①集団遊びの中でルールを守ることができる。 | ①集団や社会のルールを守ることができる。 | ①自己の欲求よりルールを尊重できる。 | ①法やきまりの意義を理解し、それらを守ることができる。 |
| 自 立 | ②みんなが使うものを大切にすることができる。 | ②周りの人のことを考えながら行動できる。 | ②学校や人々の役に立つことを進んで行うことができる。 | ②日本の文化や伝統を大切にするとともに、国際的視野に立って公共のために役立つことを進んで行うことができる。 |

4. 平成20・21年度児童・生徒指導推進委員会委員

| | 立 場 | 氏 名 | 所属・役職等 | 備 考 |
|----|--------|--------------------|----------------------------|----------------------|
| 1 | 有識者 | 小 林 千枝子 | 作新学院大学経営学部教授 | 委員長 |
| 2 | 行政関係者 | 潮 田 裕 子 | 総合教育センター副主幹 | 職務代理者 |
| 3 | 〃 | 宮 井 由 美 | 総合教育センター副主幹 | |
| 4 | 〃 〃 | 手 塚 宏 行 西 村 和 孝 | 河内教育事務所副主幹 河内教育事務所指導主事 | (平成20年度) (平成21年度) |
| 5 | 〃 | 湯 澤 信 | 上都賀教育事務所副主幹 | |
| 6 | 〃 | 小 林 洋 一 | 芳賀教育事務所副主幹 | |
| 7 | 〃 〃 | 倉 井 克 之 海老沼 功 | 下都賀教育事務所副主幹 下都賀教育事務所副主幹 | (平成20年度) (平成21年度) |
| 8 | 〃 | 築 瀬 のり子 | 塩谷教育事務所副主幹 | |
| 9 | 〃 〃 | 大 平 功 郡 司 祥 久 | 那須教育事務所副主幹 那須教育事務所指導主事 | (平成20年度) (平成21年度) |
| 10 | 〃 | 大 金 仁 | 南那須教育事務所指導主事 | |
| 11 | 〃 | 川 田 寿 | 安足教育事務所副主幹 | |
| 12 | 〃 | 菊 地 明 男 | 学校教育課副主幹 | |

※所属・役職等は該当年度のもの

5. これまでの主な指導資料

- 平成12年度
「児童生徒指導の指針－心豊かな栃木の子どもを育てるために－」
栃木県教育委員会（平成12年9月）
- 平成13年度
「児童・生徒指導に関する危機管理マニュアル作成資料」
栃木県教育委員会（平成14年2月）
- 平成14年度 児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ
「不登校の解消に向けた方策について」
栃木県教育委員会（平成14年10月）
- 平成15年度 児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ
「暴力行為を予防するための方策について」
栃木県教育委員会（平成15年10月）

「児童・生徒指導資料」
－児童・生徒指導の充実を目指して－
栃木県教育委員会（平成15年11月）
- 平成16年度 児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ
「場に応じた適切な判断力を育てるための指導・援助の在り方」
－加害者にも被害者にもさせないために－
栃木県教育委員会（平成16年10月）
- 平成17年度 児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ
「望ましい人間関係を構築する能力を育成するための指導・援助の在り方」
栃木県教育委員会（平成18年3月）
- 平成18・19年度 児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ
「学校に求められるこれからの児童・生徒指導」
－児童・生徒指導が機能する学校体制づくり－
栃木県教育委員会（平成20年3月）

平成20・21年度 児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ
「学校に求められるこれからの児童・生徒指導」
－発達課題の視点から見た児童・生徒指導の評価について－
平成22年3月

発行 栃木県教育委員会事務局学校教育課児童生徒指導推進室
〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20
☎ 028-623-3359
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/kyouiku/index0.html>
(栃木県教育委員会－「教職員のためのページ 児童・生徒指導」)